

プロトタイプ編集版

現場から学ぶ！SDGs人材育成ワークブック

企業研修／生涯学習／地域づくり
SDGs社会教育・学び合いヒント

中部地方ESD活動支援センター SDGs社会教育研究会
2022年7月

目次

はじめに

1. ローカルSDGs実現のための人づくり「SDGs社会教育」が必要なわけ
2. 「SDGs社会教育」が目指すもの
3. 実践方法を考える～中部地方の実例から①
4. 実践体制をどのように構築するか～中部地方の実例から②
5. 実践効果をどう考えるか

はじめに

環境省の事業であるESD推進ネットワークでは、様々な分野でのESD推進を支援しています。全国8つの地方センターのうち中部地方ESD活動支援センターでは社会におけるESD推進を目的とした支援活動を展開してきました。このワークブック（プロトタイプ版）は令和3年度の地方センターそれぞれが特徴のあるテーマに沿って活動する「学び合いプロジェクト」の1年目の活動成果をとりまとめたものです。中部テーマは「社会へのESDの実装」としており、ローカルSDGsを担う人材づくりをSDGs社会教育と呼び、その枠組みを戦略的に検討することを試みました。プロジェクトではSDGs社会教育研究会WGによる3回の研究会、公開オンラインセミナー2回、公開現地ワークショップ1回、全国ESD推進フォーラム分科会などの活動を経て検討を進めてきました。これらの結果を元にして社会ESDの現場でヒントとなるよう、枠組みを作成したのが本書です。企業研修／生涯学習／地域づくり等の現場で、何か一つでも皆様のお役に立つ内容があれば幸いです。

様々な検討にあたり現地の関係者やその他支援をいただいた皆様をはじめ、ESD推進ネットワークの関係者の皆様に感謝します。特に東京都市大学の佐藤真久先生には、学術的背景をはじめとした専門的な助言に感謝いたします。

2022年3月環境省EPO中部・中部地方ESD活動支援センター SDGs社会教育研究会WG

SDGs社会教育研究会WG

古澤礼太 中部大学国際ESD/SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局長

水上聡子 EPO中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表

堺 勇人 EPO中部運営委員、一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）事務局長

原 理史 中部地方ESD活動支援センター、中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員

【オブザーバー】佐藤堅太 環境省 中部地方環境事務所環境対策課主査

【事務局】清本三郎 EPO中部統括

1. 「SDGs社会教育」が必要なわけ

2021年5月に策定された「持続可能な開発のための教育（ESD）」に関する実施計画（第2期ESD国内実施計画）では「ESD for 2030」の理念を踏まえ、ESDがSDGs達成への貢献に資するという考え方が初めて明確化されました。

実際に計画の中では、「第1章総論、2. 本計画の位置づけと実施体制において」、「我が国のSDGsに関する方針を踏まえつつ、持続可能な社会の創り手の育成を効果的に推進することが求められる」とされています。

また「第2章具体的取組、1. 優先行動分野における各ステークホルダーの取組」では、「（5）優先行動分野5：地域レベルでの活動の促進」として「地域においては様々なステークホルダーが連携しながら、身近な課題を解決するための行動変容を促し、ESDを通じて地域づくりを推進していくことが求められる」とされ、ESDによるローカルSDGsの推進が期待されています。

すなわち、地域における持続可能な社会づくりのためには、ESD＝人材育成が必要とされ、地域づくりにつながるとされているのです。この人材育成には学校教育はもちろんですが、社会人やその予備軍であるユースのSDGs教育が欠かせません。そうした意味で「SDGs社会教育」は重要な課題なのです。

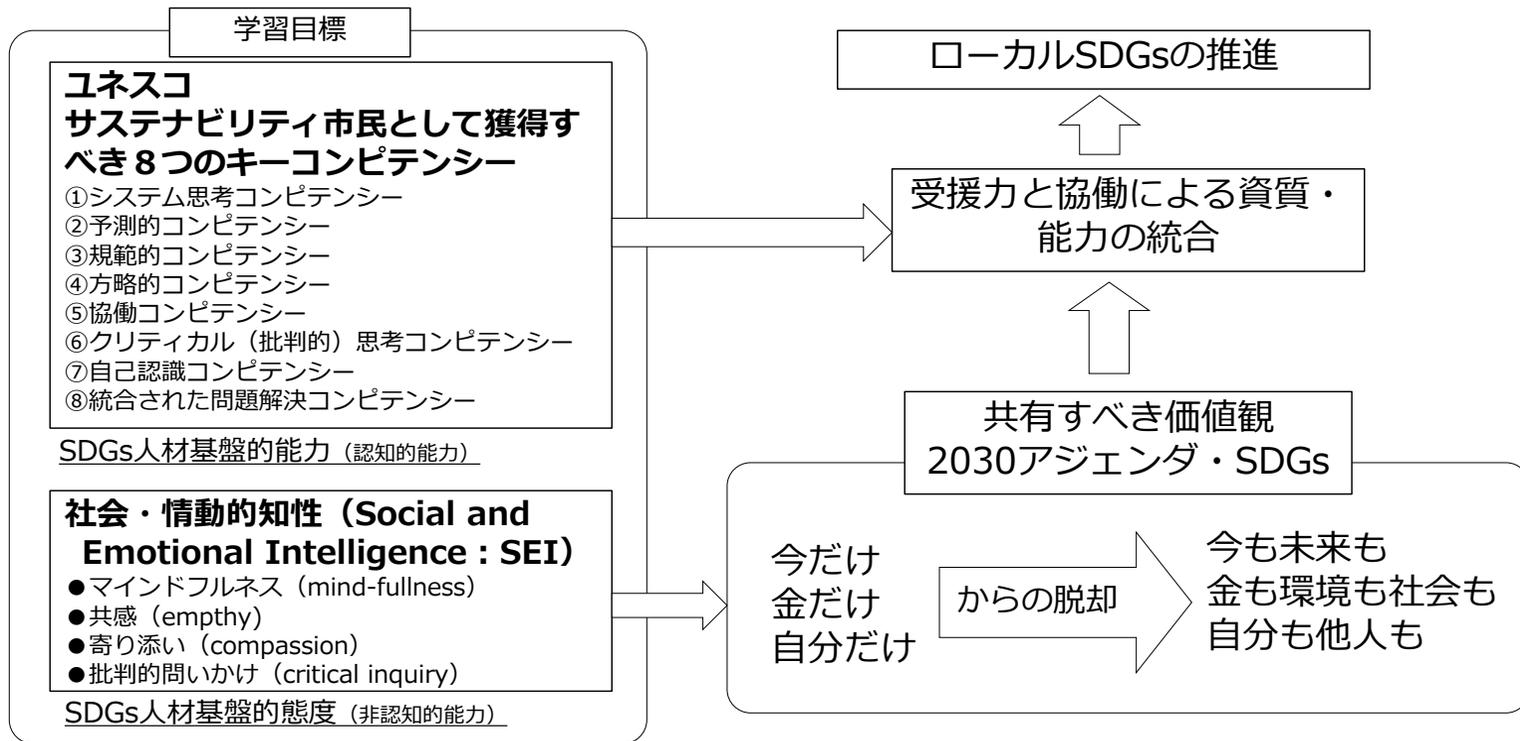
備考：「SDGs社会教育」の意味

社会教育法では第二条で「法律で「社会教育」とは、学校教育法(昭和二十二年法律第二十六号)に基き、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動(体育及びレクリエーションの活動を含む。)をいう」と定義されています。本書ではこれを踏まえ、社会教育法が目的とする「国及び地方公共団体の任務」内容を支援し、ローカルSDGs達成に資する、企業研修／生涯学習／地域づくりなどの現場で実施される、社会におけるESDを示す用語として使います。

2. 「SDGs社会教育」が目指すもの～どんな人になりたいか

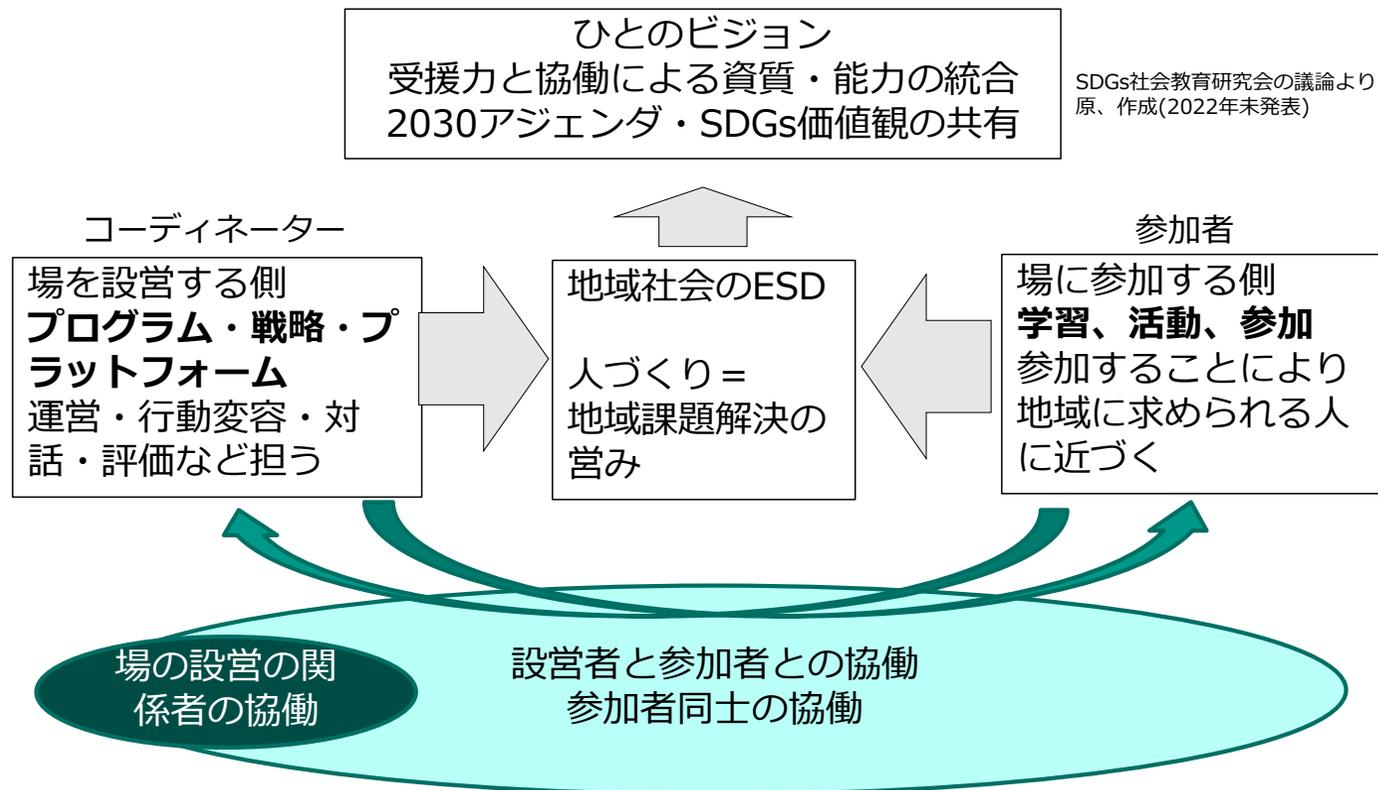
持続可能な社会を担う人づくり、すなわちESDが目指す人のビジョンとはなんでしょうか。本書では広石、佐藤の著書を参考に、ユネスコが示す8つのキーコンピテンシーと、Durajappah, Anantha (2019) の示す社会・情動的知性 (Social and Emotional Intelligence : SEI) を重要視し、地域を担う能力や資質をもつことが重要と考えました。

ここでユネスコの8つのキーコンピテンシーをすべて個人が備えることはかなり難しいとも言えます。そこで重要になるのは「受援力」と「協働」です。専門的能力はもちろん、様々なキーコンピテンシーに長けた多様な主体が協働することでローカルSDGs地域づくりに大きな力を発揮することができます。その際、地域、企業、団体での「協働」取組には基盤となるマインドが必要です。ここではSDGsマインドと呼び、社会情動的知性 (SEI) がその根幹を成すと考えます。



2. 「SDGs社会教育」が目指すもの～学び合いの場づくり

「SDGs社会教育」を行うということはどういうことでしょうか。端的に言えば学習の場を作ることと考えられます。そこにはコーディネーター「場を作る側」と参加者「場に参加する側」がいます。そして地域課題に取り組むための「学び合い」が行われることによって人づくりが促進すると考えました。つまり、地域社会でのESDは人づくりであると同時に地域づくりでもあり、また協働による「学び合い」がESDを促進すると考えました。その「学び合い」の結果として、「場を作る側」も「場に参加する側」も、持続可能な地域を担う「ひとのビジョン」（なりたい人）に近づいていくと考えられます。



地域社会でのESDは人づくりであり地域づくりでもある
協働による「学び合い」はESDを促進する

3. 実践方法を考える～中部地方の実例から①

SDGs社会教育の実践方法を考えるために、中部地方の実践実例を整理し、その特徴について検討しました。実践事例としてSDGs社会教育研究会WGのメンバーの報告から3つの事例を取り上げました。

大関地区“助け合いのまちづくり”

福井県坂井市大関助け合いのまちづくり推進委員会の取組

坂井市のコミュニティセンター（公民館）を拠点に、まち協、地域団体、地域住民、学校、事業所等が協働し、まちづくりを展開する事業の一環として実施。大関地区のまちづくりの土台として、ワークショップ（大関助け合いのまちづくりWS）で「まちづくりプラン」を策定。プランを元に課題解決型フィールドワーク・ワークショップ（事例：ごみ探検！ワークショップ）を実施。

SDGsトークカフェ

環境市民プラットフォームとやまの取組

光教寺SDGs OTERA caféと連動し、完全オンライン1回を含むリアル・ハイブリッドのトークカフェを6回開催。「どんな富山だったら誰もが生きやすくなるだろう??」をテーマに、生きづらさを感じている人に日々接する実践者をゲストに誰もが参加できるカジュアルなトークとワークショップから成る講座を開催。

中部サステナ政策塾

中部ESD拠点協議会（国連大学認定ESD地域拠点（RCE））の取組

ポリシーメーカーの志のある20～30代の若者を対象に、サステナビリティ政策を学ぶ講座を実施。ゲスト講師による講演とディスカッションなどの座学、地域でのフィールドワークを実施。講師には政治家・学識経験者・企業家・NPO関係者など、第一線で活躍するゲストを迎え、年間10回程度の講座を開催。2021年度はこれに加えてSDGsプロジェクトそのものを企画実行するプログラムを実施。

3. 実践方法を考える～中部地方の実例から①：事例の概要

活動名	大関地区“助け合いのまちづくり”	SDGsトークカフェ	中部サステナ政策塾
報告者	水上聡子（企画助言、講師、ファシリテーター、運営協力）	堺勇人（主催、企画・運営、コーディネーター、ファシリテーター）	古澤礼太（主催、企画・運営、コーディネーター、ファシリテーター）
フィールド／活動拠点	福井県坂井市大関地区／大関コミュニティセンター	富山県／光教寺（南砺市）	伊勢湾流域／中部大学、名古屋市内公共施設会議室等
主催者	坂井市、大関まちづくり協議会、等	一般社団法人環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）	国連大学認定「中部ESD拠点協議会」（RCE中部）（幹事機関：中部大学）
対象年度	2018年度～	2021年度	2016年度～
ESD概要	坂井市のコミュニティセンター（公民館）を拠点に、まち協、地域団体、地域住民、学校、事業所等が協働し、まちづくりを展開する事業の一環として実施。大関地区のまちづくりの土台として、ワークショップ（大関助け合いのまちづくりWS）で「まちづくりプラン」を策定。プランを元に課題解決型フィールドワーク・ワークショップ（事例：ごみ探検！ワークショップ）を実施。	光教寺SDGs OTERA caféと連動し、完全オンライン1回を含むリアル・ハイブリッドのトークカフェを6回開催。「どんな富山だったら誰もが生きやすくなるだろう??」をテーマに、生きづらさを感じている人に日々接する実践者をゲストに誰もが参加できるカジュアルなトークとワークショップから成る講座を開催。	ポリシーメーカーの志のある20～30代の若者を対象に、サステナビリティ政策を学ぶ講座を実施。ゲスト講師による講演とディスカッションなどの座学、地域でのフィールドワークを実施。講師には政治家・学識経験者・企業家・NPO関係者など、第一線で活躍するゲストを迎え、年間10回程度の講座を開催。2021年度はこれに加えてSDGsプロジェクトそのものを企画実行するプログラムを実施。
ESDプログラム内容（事例）	事例：ごみ探検！ワークショップ（2020年度開催）の内容 ①説明後ウォーキングしながらゴミの写真を撮ってゴミを拾う ②模造紙にゴミの種類を書き出す ③グループ発表 ④大関の未来に向けてディスカッション	プログラム 第1回：不登校／引きこもりでも生きやすい富山って?? 第2回：生きものも生きやすい富山って?? 第3回：一人親家庭でも生きやすい富山って?? 第4回：障害者でも生きやすい富山って?? 第5回：外国人でも生きやすい富山って?? 第6回：性的マイノリティでも生きやすい富山って??	事例：2021年度プログラム 第1回：講座・WS/SDGsの構造とSDGsプロジェクトの意義 第2～4回：SDGsプロジェクト立上げ、SDGsターゲット検討、プロジェクトWS 第5回：中間イベント・発表 第6回：フィールドワーク豊川流域 第7～8回：講座・WS/ローカルSDGsネットワークの発展、SDGsプロジェクトの可視化と連携 第9回：相互評価 第10回：SDGsフォーラム2022 参加

3. 実践方法を考える～中部地方の実例から①：事例分析の結果

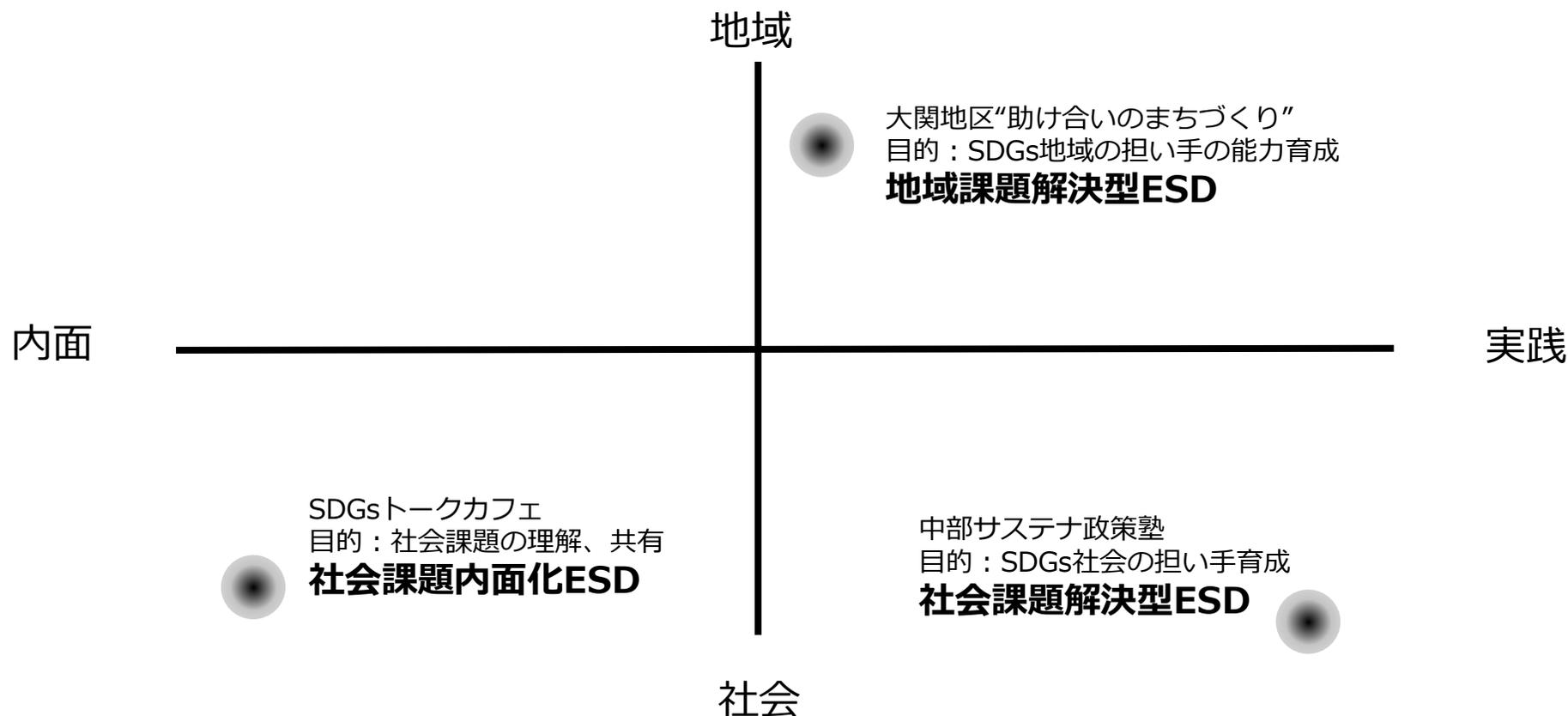
活動名	大関地区“助け合いのまちづくり”	SDGsトークカフェ	中部サステナ政策塾
参加者の属性 (募集対象)	地域住民（地域限定）、各種団体（行政、住民組織、市民団体他）	地域住民など、関心のある市民（現地、オンライン参加）、テーマに沿った当事者（現地参加）	ユース世代（39歳以下）、意欲のある個人、企業や行政からの派遣
目的	SDGs地域の担い手の能力育成	社会課題の理解、共有	SDGs社会の担い手育成
目標	まちづくりプラン策定、及びその実現のための意欲向上と、行動変容のための、できること見つけ	課題の見える化、自分事化	広い意味でのSDGs社会のポリシーメーカーを育成、及び仕組みづくり
プログラムの 特徴	フィールドワークと室内ワークショップの組み合わせ	気楽な対話形式とグラフィックファシリテーターによる絵的な即時フィードバック	講演、ワークショップ、現場視察の組み合わせ。具体的なSDGsプロジェクトの企画立案と実践
場所の特徴	対象地域の現場、公民館（コミュニティセンター）	SDGs取組に理解あるお寺、オンライン	会議室、オンライン、プロジェクト現場
狙いとした SDGs人材の 資質	ユネスコ8つのキーコンピテンシーの内、特に、④方略的コンピテンシー、⑤協働コンピテンシー、⑦自己認識コンピテンシー	社会・情動的知性の内、特に、 ●マインドフルネス（mindfulness）、●共感（empathy）、●寄り添い（compassion）	ユネスコ8つのキーコンピテンシーの内、特に、①システム思考コンピテンシー、④方略的コンピテンシー、⑤協働コンピテンシー、⑥クリティカル（批判的）思考コンピテンシー、⑧統合された問題解決コンピテンシー
ESD分類	地域課題解決型ESD	社会課題内面化ESD	社会課題解決型ESD

3. 実践方法を考える～中部地方の実例から①

ねらいや目的によって事業やプログラムの実践デザインを考えることが重要！

報告された3つの事例を、その目的や学習目標、プログラムの特徴などについて分析した結果、ESDの目的によって、プログラムや手法に特徴があることがわかりました。すなわち、SDGs社会教育実践のねらいや目的によってプログラムや手法について適切なデザインをすることが必要です。

また、実践のためのデザインを行う場合、普及啓発事業デザインを参考にコンテンツ、アプローチ、コミュニケーション場、フォローアップの4つの側面から検討すると考えやすくなります。



3. 実践方法を考える～中部地方の実例から①：SDGs社会教育・実践デザインの考え方の例

SDGs社会教育の現場を実践デザインとして考えた時の一つの例です。普及啓発事業デザインを参考にしています。4つの側面からデザインを考えます。括弧内はデザインを考える時に主となる担当者です。

コンテンツデザイン (講師、ファシリ)

テーマに沿ったSDGs情報のかたまり、教材、ツール

アプローチデザイン (主催者)

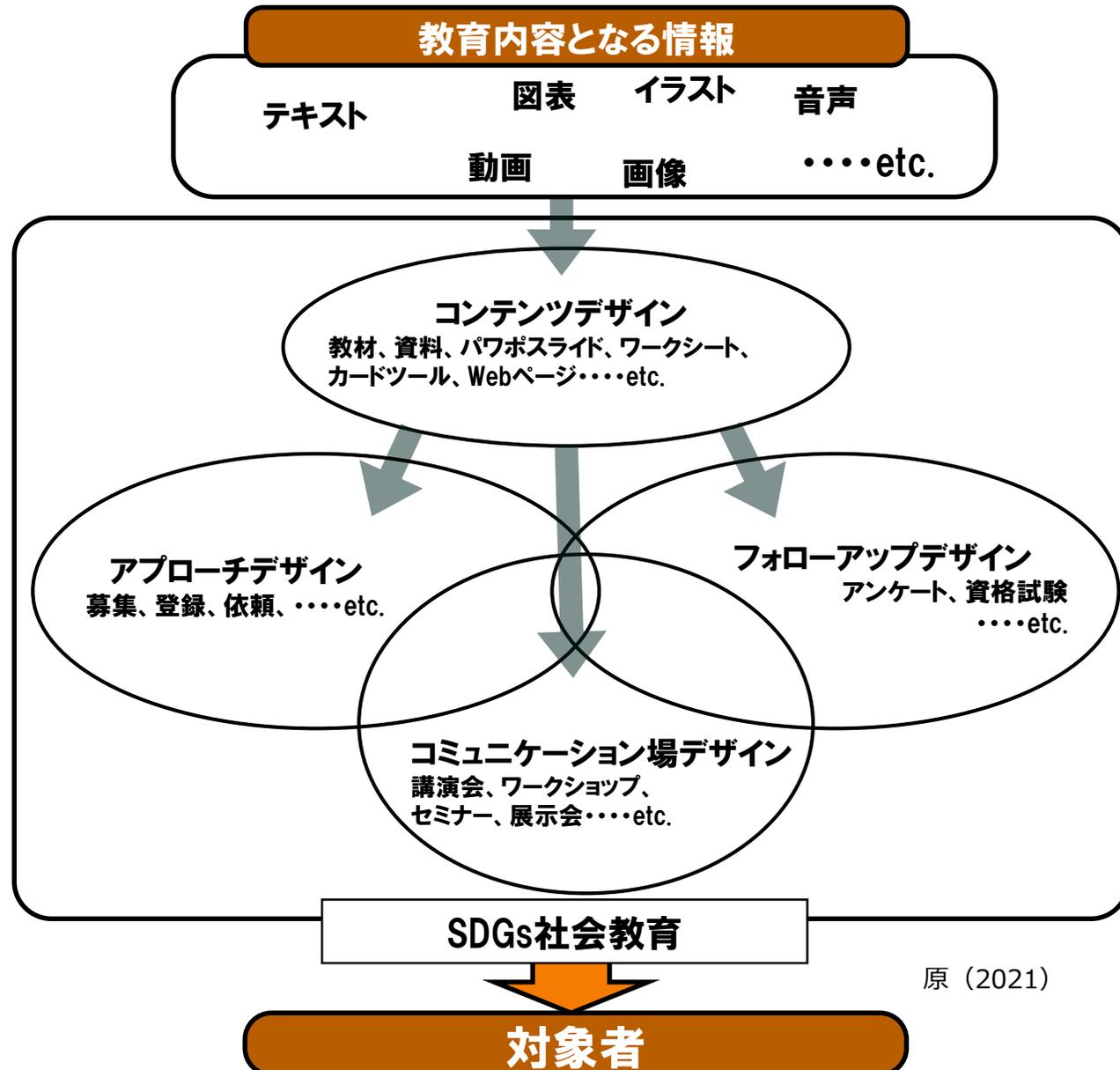
募集、応募、告知、登録など、受講者を集める手法や仕掛け

コミュニケーション場デザイン (講師、ファシリ)

ESD実践現場の設営と運営

フォローアップデザイン (主催者)

アンケートなど効果の確認・定着のための事後の働きかけ等



原 (2021)

4. 実践体制をどのように構築するか～中部地方の実例から②

SDGs社会教育を実施する仕掛け側はどんな人が考えられるでしょう。またどんなニーズで実施することが考えられるでしょう。例えば、SDGsに取り組みたい企業の経営者は従業員に対して、ローカルSDGsを目指す自治体の担当者は行政職員や市民に対して、自治会の会長はその地区の住民に対して、大学は学生に対して、実施したいと考えるでしょう。ニーズを最も感じている主体それぞれが主催者になってSDGs社会教育を実践することになります。

実践体制を構築するためには様々な人的、物的資源を組み合わせることが必要です。目的にあった実践方法を選択するとともに、それに適した資源を適切に組み合わせなければなりません。例えば、ある手法に対して場所や形態？人材？をどうするか考えなくてはなりません。

場所・形態？

- 講座・教室（自治体）
- 自宅学習
- 講座・教室（民間）
- サークル
- 職場の教育・研修
-

人材？

- 社会教育における専門職員
- 社会教育主事
 - 公民館主事
 - 司書
 - 学芸員
 - 社会教育指導員
 -

手法？

- 講義・講演
- ワークショップ
- 見学・視察
- 体験
- フォーラム・発表視聴
- プレゼンテーション
- 議論・討論
- 試験・レポート・論文執筆
-

参考：ばれっとひろしま 広島県立生涯学習センター資料
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploadd/attachment/123069.pdf>

すると様々な制約条件が出てきます。人材や資金はその最たるものです。どうすれば克服できるのでしょうか。

- こと：情報ネットワーク、プラットフォーム、イベント連携.....
- ひと：専門家、指導者（講師、ファシリ）、運営者、企画者.....
- もの：会場、音響設備、実験道具.....
- 金：寄付、会費、補助、クラウドファンディング.....

4. 実践体制をどのように構築するか～中部地方の実例から②

実践体制実現のポイントは？「協働」と「資金」をいかにつくるかが重要！

報告された3つの事例を、実践体制実現のポイントという観点から「こと」、「ひと」、「もの」、「金」をキーワードとして分析しました。

その結果、「ひと」は人脈やネットワークが、「もの」はそれに付随した特徴ある開催場所やツールが、そして「こと」はイベント相乗効果や情報発信、あるいは「ひと」ネットワーク活用のためのコツであることが見えてきます。これらはすべて「協働」のノウハウであるとも言えます。

一方、そのコストを賄う方法が欠かせません。公的な予算や助成をいかに活用するかが大切です。そのためには十分な説明を権限者に行う必要があります。また企業の依頼も考えられ、SDGs取組ニーズを満たすためのコミュニケーションもこれから必要となるでしょう。

活動名		大関地区“助け合いのまちづくり”	SDGsトークカフェ	中部サステナ政策塾
実施主体の分類		地元有志とまちづくり協議会の協働による推進委員会	SDGs活動の中間支援団体	ESD活動団体
実現のポイント	こと	声をかける、オープンでフラットな関係性	デザイナーによる各種デザイン（グラフィック）、メディアへのプレスリリース	他のイベントに乗っかる（相乗効果）
	ひと	まちづくり協議会や各種団体のネットワークなど【既存の団体】	デザイナーなど専門家の人脈とネットワーク【救済力】	高等教育機関との連携、人脈ネットワーク【大学人材の活用】
	もの	地域で使われているコミュニティセンター	お寺、仏壇の前で（本心が出やすい）	大学キャンパス、オンライン機材
	金	基礎自治体予算から支出される、まちづくり協議会の予算	助成金、行政からのSDGs事業受託、企業会員（SDGs取組ニーズ）	助成金（申請書をうまく書く）、アイデアが重要、自治体首長の関心

5. 実践効果をどう考えるか

SDGs社会教育の実践がどのような効果をもたらしたのか。それを把握することは事業の改善のためにも、対象者へのさらなる働きかけのためにも重要です。前述した学習目標に対する資質の向上について少なくとも自己評価のアンケート調査することが望まれます。また行動変容への動機づけが行われたかも大切な効果です。そこでユネスコ8つのキーコンピテンシー、社会・情動的知性（SEI）に加え、内発的動機づけの三つの欲求が刺激されたかどうかを合わせたアンケート項目を試作しました。海岸ゴミのワークショップの「学びあいプロジェクト実践セミナー」で試用した結果を以下に示しますので参考にしてください。

アンケート項目の例（そう思う～あまり思わない、段階選択肢形式）

海ごみ問題の解決には・・・	コンピテンシー	社会情動的知性	内発的動機づけ
1) 様々な要素が関わり合っていることを知ることが大切。	システム思考		有能性
2) 起こり得る様々な未来の姿を予測して取り組むことが大切。	予測		自律性
3) 自分はどのように行動したらよいか判断できることが大切。	規範的		自律性
4) 戦略的・計画的な方策を練ることが大切。	戦略的		有能性
5) 他者の立場や意見を尊重し、協力して進めることが大切。	協働的	寄り添い・共感	関係性
6) 別の考え方や方法がないか問いかけてみるのが大切。	批判的思考	批判的問いかけ	自律性
7) 自分は何ができるか、「役割」を考えることが大切。	自己認識		有能性
8) 関連する様々な課題を整理し、統合的な方法を考えることが大切。	統合的問題解決		有能性
9) 考える時に、自分の感覚や気持ちを意識することが大切。		マインドフルネス	自律性

5. 実践効果をどう考えるか

例) 実践セミナーにおけるアンケートの試用とその結果

試用対象：実践セミナー「海岸プラごみ清掃から流域のローカルSDGsの担い手づくりへ」

2021年10月30日（土）11：00～16：30

現地視察とセミナーWS

オンラインハイブリッド開催

<午前：現地視察> 11：00～六渡寺海岸（富山県射水市）にて視察体験（オンライン中継）

- 集合：10：45
- 活動：徒歩で六渡寺海岸へ、視察、ごみ拾い体験

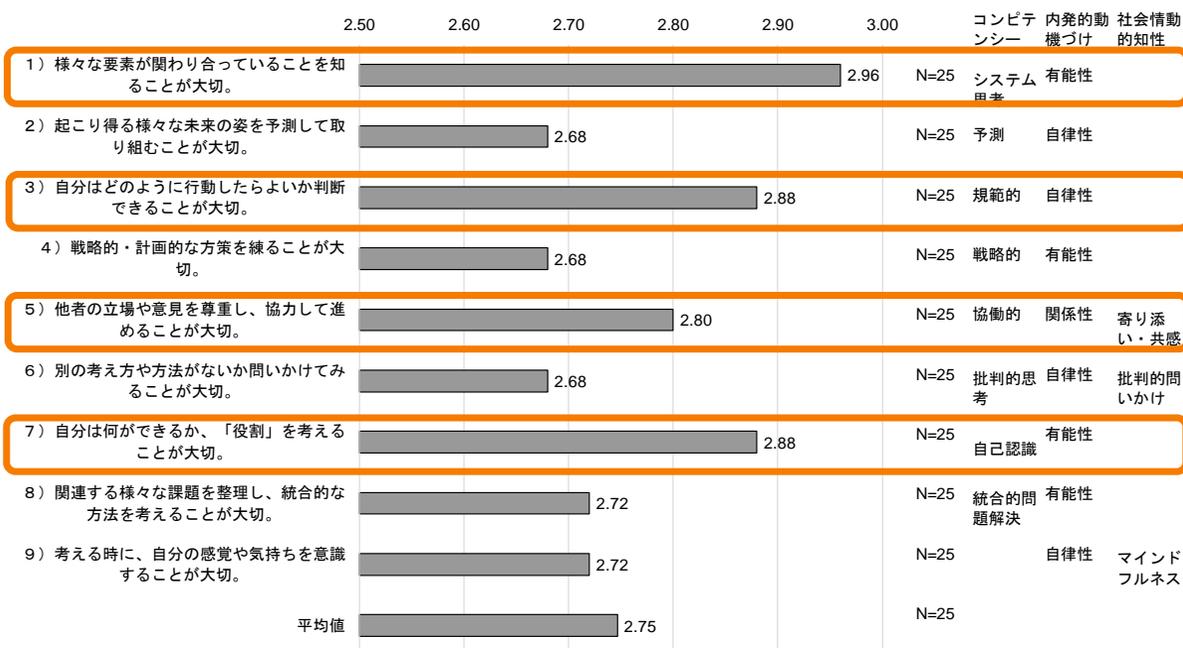
昼食休憩

<午後：ワークショップ> 13：30～

- はじめに 本セミナーの内容について説明
- インプット
プラスチックの功罪、海ごみからのSDGsと市民意識 楠井隆史：富山大学名誉教授
現地視察の振り返り、海岸のごみ清掃活動について 境 信誓：六渡寺自治会長
休憩（10分）
- グループワークショップ
六渡寺海岸のプラごみ問題、どのようにつながっている？
ワークショップ結果発表と討論
コーディネーター 原理史 中部地方ESDC
- 総括コメント
実践活動の学びを持続可能な社会に活かす地球市民 佐藤真久：東京都市大教授

実践セミナーのアンケート結果

そう思わなかった1点～とてもそう思った3点：3件法平均値



海岸ゴミを題材としたSDGsワークショップの開催後のアンケート結果を分析した例です。キーコンピテンシーでは「システム思考」、「規範的」、「協働的」、「自己認識」について学習効果があったと考えられます。また内発的動機づけは「有能性」、「自律性」、「関係性」の3つの欲求すべてが刺激されたとか考えられます。一方、社会情動的知性については「寄り添い、共感」という、協働の下地となる基盤的態度が醸成されたと考えられます。